

7章 おわりに

本調査では、新潟県中越沖地震の発生から約3週間後の8月8日、9日の2日間の日程で、最も被害の大きかった柏崎市及び刈羽村を訪問し、水道施設の被害状況、応急給水・応急復旧の対応について把握するとともに、被害を受けた水道施設や液状化の状況等を現地調査した。

本報告書は、現地での調査状況、調査時に得られた被害状況を整理するとともに、調査に参加した学識経験者、水道関係者の知見に基づき、地震動の概要、水道施設の被害状況、応急給水・応急復旧の対応、今後の課題・提言等について取りまとめたものである。

厚生労働省が平成16年6月に策定した「水道ビジョン」では、水道施設の耐震化や応急体制の充実等について、取り組むべき諸施策と具体的な施策目標を示し、災害対策の強化を掲げている。

各水道事業の関係者は、本地震を契機に一層の防災意識を高めるとともに、ライフラインである水道に寄せられる国民の信頼に応え、いかなる時にも安全で安定した水道水供給ができるよう、地震災害対策に対し積極的に取り組んでいくことが重要である。

また、本報告書が、水道施設の耐震化対策、応急給水・応急復旧計画等を策定する際の一助となれば幸いである。

最後に、被災後のご多忙の中、現地調査にご協力いただいた柏崎市、刈羽村、並びにアンケート調査にご協力いただいた長岡市、上越市、出雲崎町の職員の皆様には、心より感謝を申し上げます。